

野生動物の個体追跡による獣害発生の予測への挑戦

中林 雅(自然探究領域)、清水 則雄(総合博物館)、浅野 敏久(社会探究領域)

行動追跡ができたのは2日間だけであったが、住宅や田畑付近の山で休息すること、山の斜面上の比較的平坦な場所で休息すること、30分で直線距離約300mを移動することが分かった。

追跡期間中にこの個体の農耕地への侵入は確認できなかったが、人間の居住地付近に生息していることから、農耕地への侵入や、病原体を媒介する外部寄生虫がこの個体によって人間の居住地付近に運搬される可能性はある。

今後もイノシシやシカなどの個体追跡を継続する。



2024年12月11日から12月13日の間の東広島市福富町で捕獲したイノシシ♂1個体の推定位置

野生動物に対する許容度と印象 東広島市の場合

- 中山間地域ではイノシシやシカの許容度が低い
- 野生動物による被害経験は許容度、印象に関係なし
- 都市部の住民の野生動物に対する印象は消極的



許容度が低い野生動物＝心的被害が大きい

伝聞や先入観で心的被害が大きくなっている可能性。
各動物の生態や習性を学習し、対策を実施する機会によって心的被害の軽減につながる可能性がある。

野生動物が運搬するマダニ類が 媒介する感染症

- 獣害は経済的被害だけでなく、健康被害もある
- 野生動物が人間の居住地に接近する
＝マダニ類などの外部寄生虫との接触機会増加



民家付近で駆除された動物の
体表からマダニ類を採取
→種同定と保有する病原体
を解析中



ツキノワグマ1個体から採取した
マダニ類3種